第 12 回 「まちの活性化・都市デザイン競技」について

主　催：まちづくり月間実行委員会、財団法人都市づくりパブリックデザインセンター
後　援：国土交通省、栃木県、宇都宮市
事務局：財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

■趣　旨

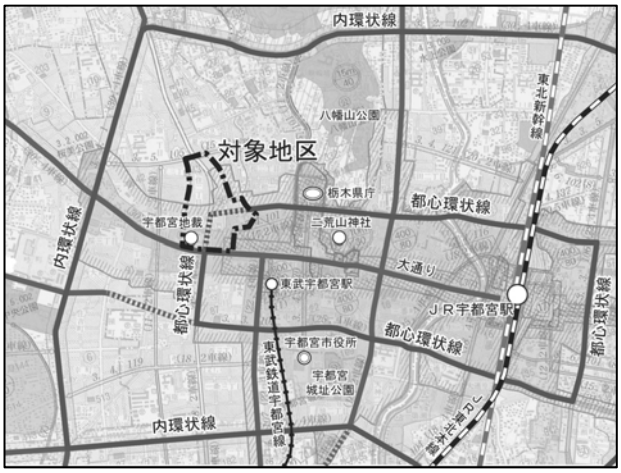
これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。

現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備えた洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。

こうしたまちづくりの基本的課題を踏まえ、本「まちの活性化・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについて広く一般から提案を募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成 10 年度より毎年実施しており、今回で回目を数えます。

■対象地区

対象地区は、全国公募に応募された候補地の中から栃木県宇都宮市「小幡・清住地区」（約 16.9ha）を選定し、当該地区の整備課題となっている「地域資源を活かした活力ある街並み形成と居住環境の向上」をテーマに設定しました。



対象地区の位置

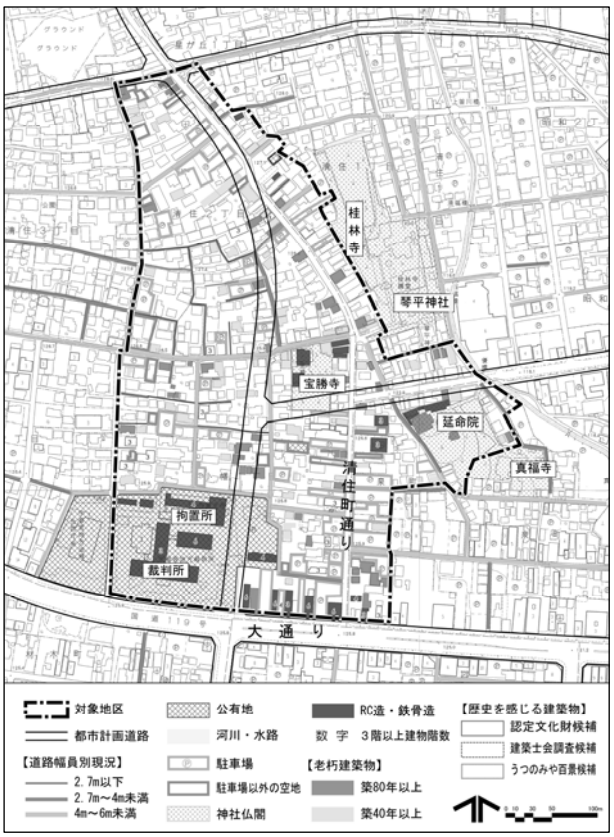
■募集内容

１．対象地区の現況と課題

小幡・清住地区は、宇都宮城下の北西に位置し日光街道の開通とともに発達したまちです。江戸時代に「御旗組」と呼ばれる足軽屋敷が置かれていました。

第２次世界大戦の戦火を逃れたことから、地区内には宇都宮城下の繁栄を偲ばせる寺院や商家などの建造物の外にも、地域の人々に守られた遺産が多く残されています。その一方で、道路等の公共用地率が低く、接道不良住宅、緊急車両の入れない狭小道路などが多く見られます。また商業（小売業）の衰退と居住者の高齢化、人口減少が顕著であり、空地や青空駐車場が多く点在し、地区内の活力低下やコミュニティの希薄化が懸念されています。

一方、当地区は、昭和 41 年に土地区画整理事業区域として都市計画決定されましたが、都市計画道路（都心環状線）とともに未だ事業着手がされておらず、都心部の交通処理上重要な役割を担う都心環状線の唯一の未供用区間となっています。



対象地区の現況

宇都宮市では、こうした諸問題に応えるため、地元住民で構成する「小幡・清住地区まちづくり協議会」において、まちづくりの検討が進められています。また現在策定中の「第２次宇都宮市都市計画マスタープラン」において、まちづくりの理念・目標・整備方針が記されています。

２．対象地区に関するまちづくり方針

（１）小幡・清住地区まちづくり協議会による方針

地元選出の委員で構成する「小幡・清住地区まちづくり協議会」において策定されたまちづくりの基本目標は次のとおりです。

〈目指すべきまちの姿〉

『懐かしき未来のまち　小幡・清住』

〈まちづくりの基本目標〉

①歴史・文化・みどり薫るまち

②みんなに優しく、いつまでも住み続けられるまち

③子供の声があふれ、活気あるまち

（２）宇都宮市の都市計画マスタープラン

現在策定中の「第２次　宇都宮市都市計画マスタープラン」においては、対象地区を含むエリアについて、以下のような方向を目指しています。

① 都市づくりの理念

ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）の形成

② 将来都市像

『暮らしやすさ・集いやすさが持続できる都市』

③ 都市づくりの目標

ア．安心して快適に住み続けられる都市

イ．活力・魅力を創造し続けられる都市

ウ．快適で安全に移動できる都市

エ．環境と共生した都市

④ 土地利用の区分・配置及び整備方針

ア．都心業務地

都心業務地は、都心商業業務地をサポートする地区として、概ね都心環状道路周辺に配置します。業務機能や商業機能、また、それら機能と調和した都市型住宅の誘導を図るとともに、土地区画整理事業等により、都心商業業務地の都市活動を支える骨格道路等を整備することで、都心業務地を形成します。

イ．都心居住地

都心居住地は、徒歩、自転車や公共交通により、都心部の都市的サービスに容易にアクセスできる地域として、内環状道路内に配置します。中高層住宅を主体とした比較的密度の高い住宅地としての形成を図るとともに、都市基盤が未整備な地区では、土地区画整理事業等により、計画的、総合的な整備を推進します。また、面整備や土地の高度利用と合わせてオープンスペースを創出するなど、良好な都心居住環境を形成します。

３．提案募集の内容

本競技は、上記の現況・課題及び宇都宮市等の基本方針を踏まえた上で、対象地区のまちづくりについて、次のような提案を求めたものです。

① 住みよい安全・安心のまちづくり

・未接道宅地の解消や防災性能を確保した安全・安心の住みよいまちづくりを提案すること。

・都心居住を促進する生活環境づくりに配慮すること。

② 中心市街地の一翼を担う活気あるまちづくり

・都心環状線（都市計画道路）の整備を前提に、沿道土地利用、沿道景観形成のあり方等について提案すること。

・都心環状線の整備を含めた市街地の整備手法について提案すること。

③ 歴史的資源を活かしたまちづくり

・歴史的・文化的資源を保存し、地域の活性化等に活用するまちづくりを提案すること。

・旧日光街道（清住町通り）の街並みづくりに配慮すること。

・みせ蔵、寺社、山車など、地域の文化的資源の活用に配慮すること。

・来訪者の徒歩による回遊動線に配慮すること。

４．応募図書

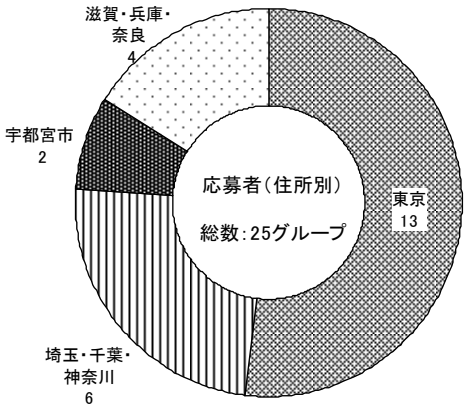
上記の募集内容に即して、整備の方針、公共空間・建物・まちなみ等のデザインイメージ、実現化手法などを A1 サイズのパネル２枚に表現したものと、提案の要旨を A4 サイズ１枚にまとめたものを応募図書として提出を求めたものです。

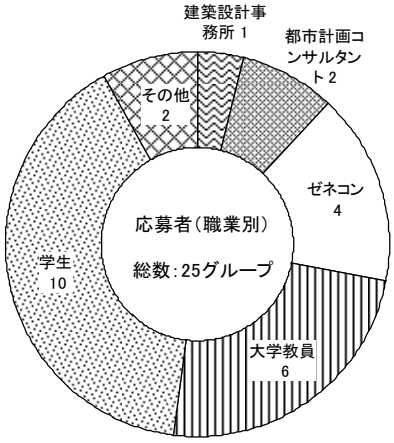
■スケジュール

応募登録	平成 21 年 10 月　1 日（木）
	～11 月　6 日（金）
現地説明会	平成 21 年 11 月 10 日（火）
質疑応答	平成 21 年 12 月 15 日（火）
作品提出	平成 22 年　2 月 15 日（月）
	～ 2 月 26 日（金）
審　　査	平成 22 年　3 月 16 日(火)
表　　彰	平成 22 年　6 月
	（まちづくり月間期間内）

■応募件数・応募者の属性

事前の応募登録数が 70 グループあり、最終的に提出された応募作品数は 25 でした(応募者の属性は円グラフを参照)。





■審査委員会及び結果

１．審査委員会

委員長	西 村 幸 夫	東京大学教授
委　員	石 川 幹 子	東京大学教授
	加 藤　源	都市プランナー
	岸 井 隆 幸	日本大学教授
	北 山 孝 雄	総合プロデューサー
	藤 本 昌 也	建築家
	森 野 美 徳	都市ジャーナリスト
	望 月 明 彦	国土交通省市街地整備課長
	池 田　猛	栃木県県土整備部長
	鳥栖 那智夫	都市プロデューサー
	佐 藤 栄 一	宇都宮市長

審査に入る前に、審査の方法等について確認されました。

２．審査結果

審査委員会での審査の結果、下記の入賞作品が選定されました。

※宇都宮市長特別賞は宇都宮市により選定されました。

○国土交通大臣賞（1 点）

…… 賞状及び賞金 70 万円

（フリー）大井洋祐

○まちづくり月間実行委員会会長賞（1 点）

…… 賞状及び賞金 30 万円

（日本大学）小石川正男、高田康史

（横村隆子ＹＨＴ環境設計）横村隆子

○(財)都市づくりパブリックデザインセンター会長賞（1 点）

…… 賞状及び賞金 20 万円

（大成建設㈱設計本部・都市開発本部）

川﨑泰之、石田 武、黒江由美、柴崎耕平、
平賀順也、宮下拓也、大槻達夫、大友佑介、
小谷野真由巳、高野愛子

○奨励賞（３点） ･････････ 各賞状及び賞金10万円

［奨励賞１］

（東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻）清水章之、三上 拓、保條理弘

［奨励賞２］

（戸田建設㈱建築設計統轄部）乾 正人、木下皓之、村田郷樹、鈴木 雄、松岡佑知

（東急建設㈱建築設計部）大塚聡史、高橋数人、砂川慎吾、山上宏明、髙石千絵

［奨励賞３］

（㈱竹中工務店）奥田紘子、奥山陽子

○宇都宮市長特別賞（２点）

･････ 各賞状･記念品及び賞金10万円

［宇都宮市長特別賞１］

（日本大学大学院生産工学研究科建築工学専攻）
坪井善道、広川慶一、砂川慶太、吉川啓太

［宇都宮市長特別賞２］

（宇都宮大学安森亮雄研究室）
安森亮雄、阿部秀顕、鈴木悠司、滝田涼介、
田中 圭、直井智之、橋田祥子、堀之内裕輔

第二次審査：有望作品一つ一つについて議論された後、二回目の投票により入賞候補作品が絞り込まれました。

最終審査：入賞候補作品を並べて、相互に比較検討しながら大臣賞をはじめ各受賞作品が選定されました。

第一次審査：審査委員が各作品を一通り閲覧したうえで、一回目の投票を行われ、有望作品が挙げられました。

■入賞作品の概要

入賞作品の概要は次頁以下に見られる通りです。なお本競技の内容及び入賞作品の詳細については、事務局である（財）都市づくりパブリックデザインセンターのホームページ（下記ＵＲＬ）をご覧ください。

http://www.udc.or.jp

国土交通大臣賞

■コンセプト：縁織（ゆかしき）の町

○ゆかりある空間のおりなすまち

■応募者：大井洋祐

（フリー）

■主な提案

街区内の低未利用空地や隙間の空間などを、糸を織りなすように、地域の魅力ある歴史的資源と結びつけることで、地域や歴史に縁のある活動が繰り広げられるネットワーク空間『おりなす空間』を創出する。

(1)『おりなす空間』により、子供が安心して活動できる場、防災に強い場、緑豊かな場などを提供する。

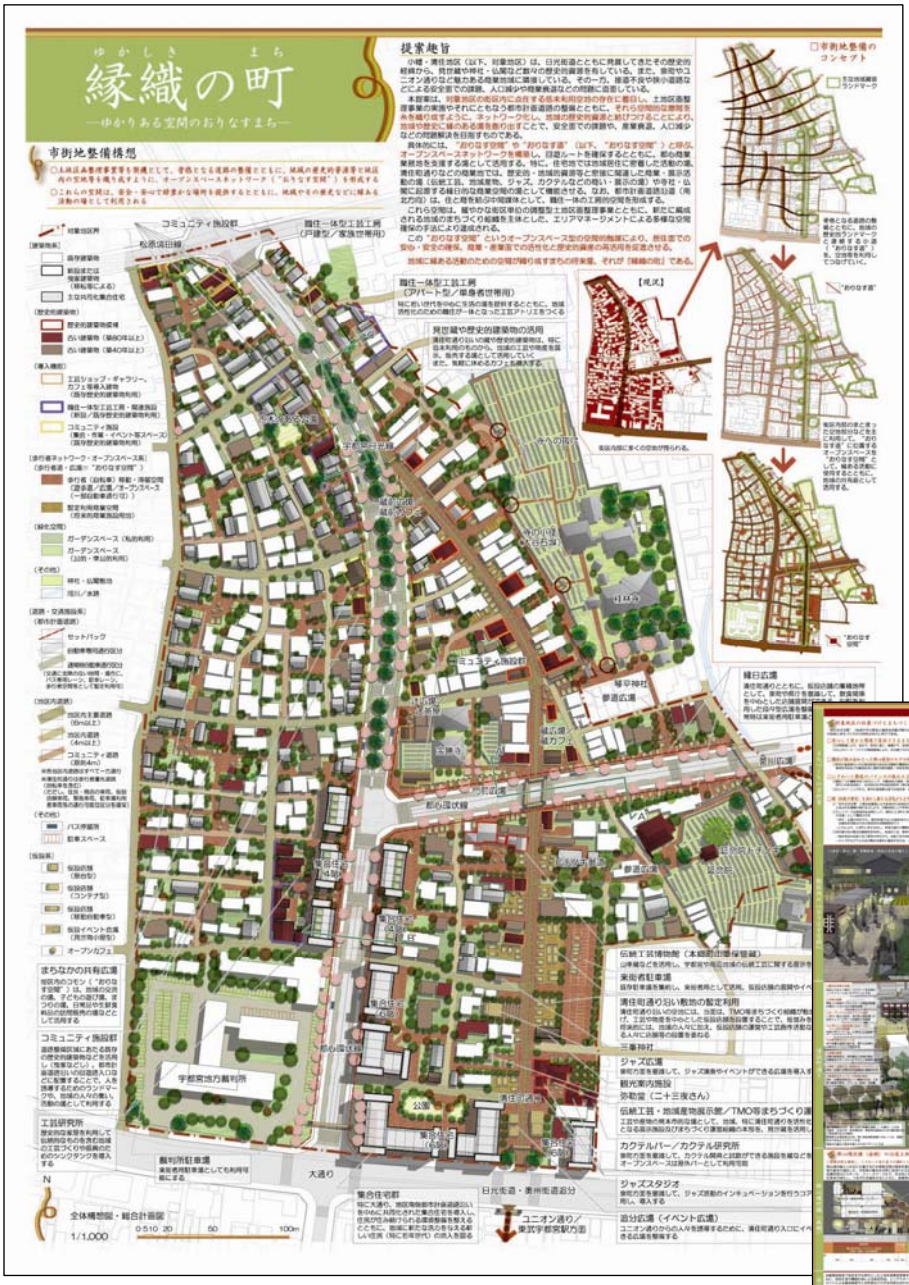
(2)伝統工芸や地域産物等を「住まい」つつ、「育成し」、「魅せる」（商い、展示する）場所として機能させる。

(3)清住通り沿道には「魅せる」機能を、都市計画道路沿道には「育成する」機能を、その他一般住宅地には「住まう」機能を重点配置し、『おりなす空間』等の利用を通じて実現させる。

(4)都市計画道路沿道では、地区南・北・東側で、各個性を活かす景観を形成する。

(5)清住通りにおいて『おりなす空間』は、参道的で歴史と賑わいのある空間として機能させる。

(6)街区単位の調整型土地区画整理事業、地区計画や景観形成重点地区による街並みや空間の担保、まちづくり組織を主体としたエリアマネジメントなど、様々な手法を組み合わせ実現する。



■審査講評

全体的には、本競技で求められた課題について一つ一つ丁寧に掘り起こし、総合性の高い力強い提案となっており、またビジュアル的な表現力も評価される。小規模区画整理事業を軸に、街区単位でまちを再生する手法が明確に提案されていることや、歴史的資源をデザインの軸にしながら、地区スケールの視点をもって、当地区の身の丈に合った計画づくりをしていることも評価できる。都心環状線の沿道景観形成や住宅のデザインなど、建築物の提案にはやや水準の平凡さを感じるが、全体的な評価バランスから最優秀と判断された。

まちづくり月間実行委員会会長賞

■コンセプト：現代の「ニワ」を育てる

○住み続けるまちの居場所づくり

■応募者：小石川正男　ほか２名

（日本大学、横村隆子ＹＨＴ環境設計）

■主な提案

都市居住のセミパブリック空間として「ニワ」を位置づけ、住民共有の財産として、多様な機能を付加し、生活の拠り所となる場（多様な「ニワ」空間）を整備する。

(1)みちの「ニワ」を育てる

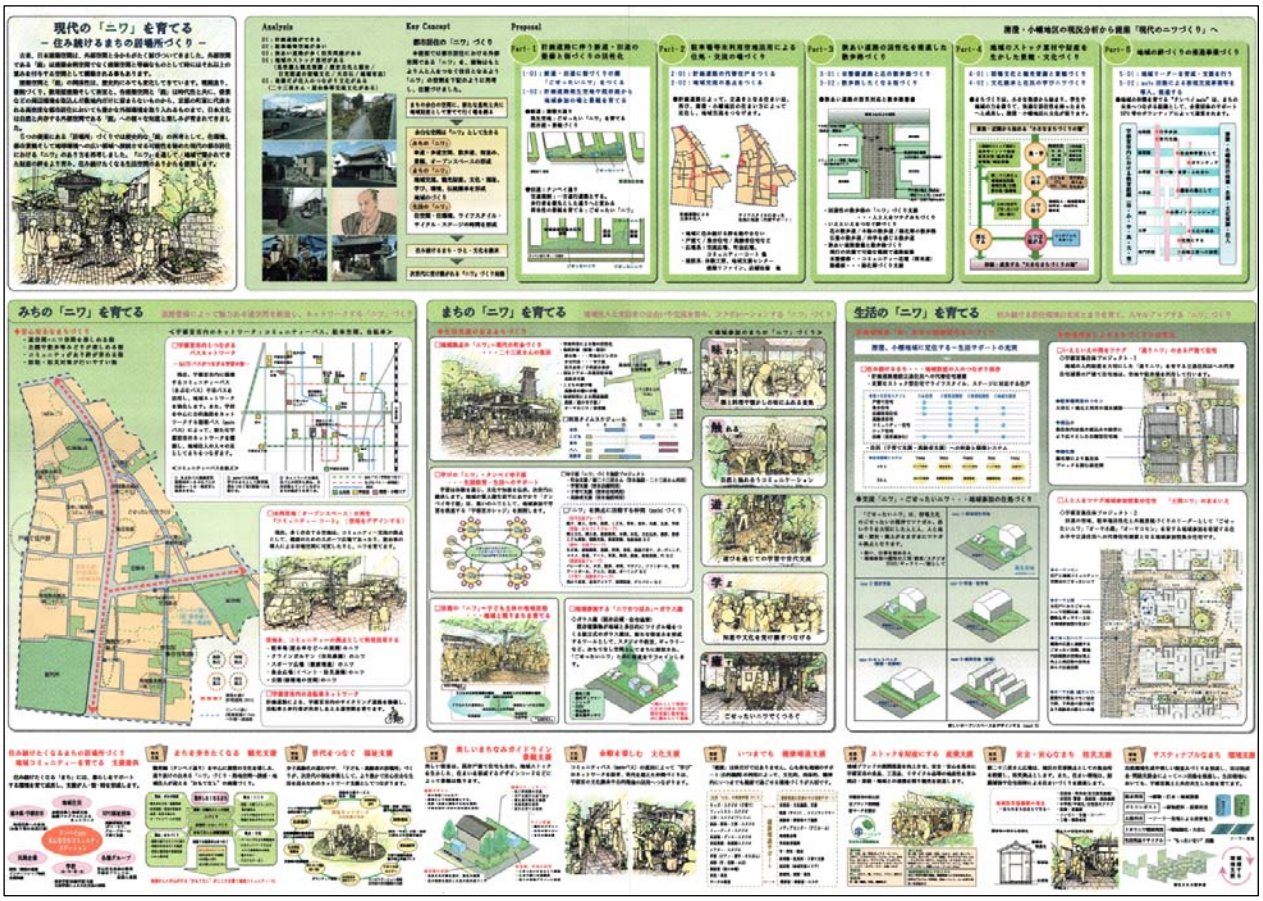
・花や緑、石畳による散歩路づくり、沿道に街の顔となる「ごせったいにわ」づくり。

(2)まちの「ニワ」を育てる

・地域交流拠点、宿場文化と観光資源と景観づくり、文化継承と住民の学びにわづくり。

(3)生活の「ニワ」を育てる

・地域参加型住宅づくり、多様なライフステージに対応した住み続けたくなる環境づくり。



■審査講評

「ニワ」というセミパブリックな空間を住民が協力し合って造っていくというコンセプトには新味があり、区画整理事業の合意形成に向けてのある意味旗印になる可能性がある。ニワを切り口として新旧バランスのとれた提案を行っており、まち全体が垣根の無い有機体へと移行してきく“きざし”も見え、新しいまちづくりの手法を示唆するものとして評価できる。

（財）都市づくりパブリックデザインセンター会長賞

■コンセプト：宇陽再興

○新旧双発型のまちづくり

■応募者：川﨑泰之　ほか９名

（大成建設㈱設計本部・都市開発本部）

■主な提案

従来のヒューマンスケールの街並みの活用と将来を見据えた都市機能の導入を両立して実現するため、「新旧双発型」まちづくりにより、「暮らし」、「なりわい」、「遊び」のポテンシャルを回復させ、宇陽（宇都宮の中心地の賑わい）を再興する。

(1)新旧双発型の暮らしの実現

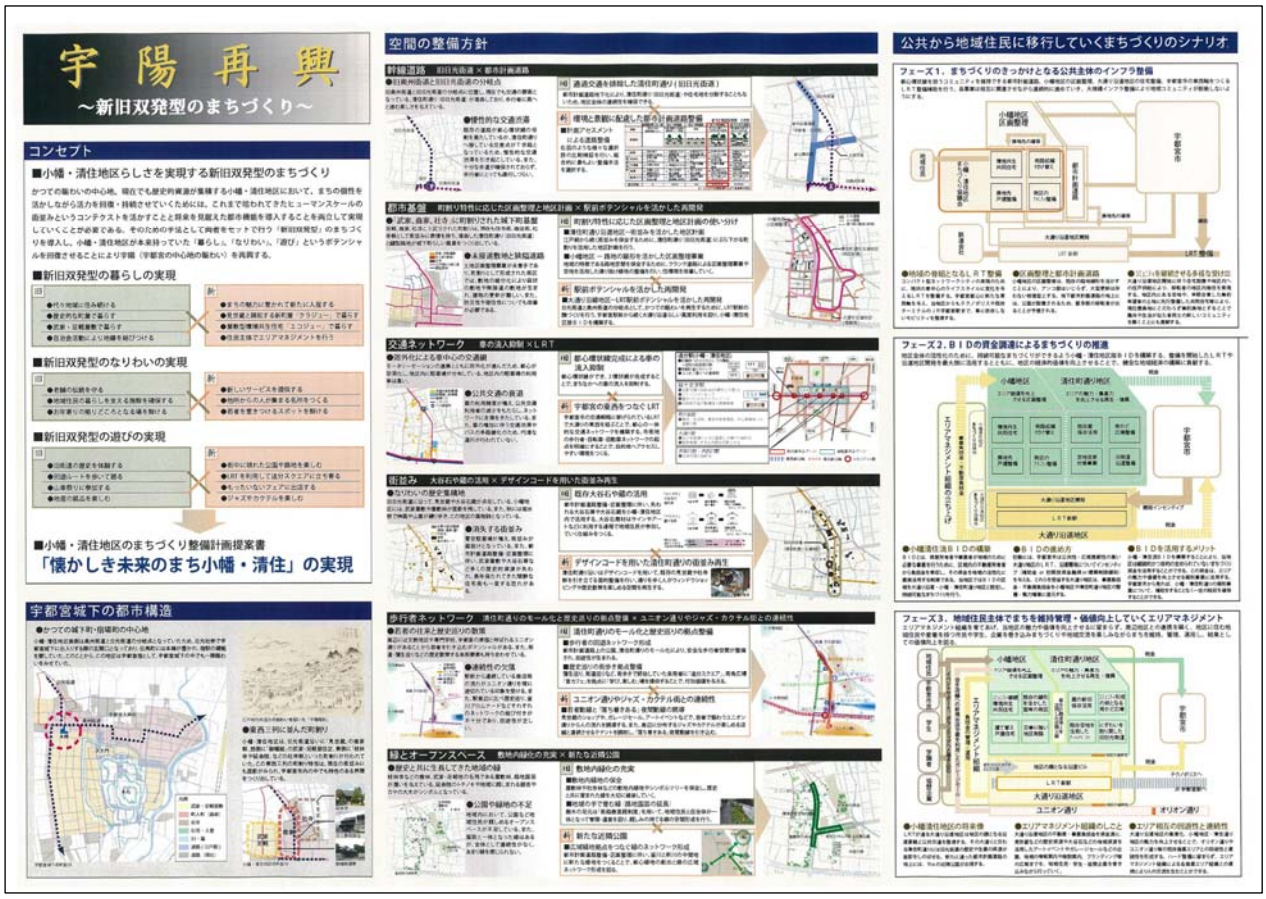
・見世蔵と調和する新町家「クラジュー」、屋敷型環境共生住宅「エコジュー」、住民主体のエリアマネジメント等の導入。

(2)新旧双発型のなりわいの実現

・集客の名所、高齢者の拠り所、若者の心を引きつけるスポット、老舗の伝統を守る新サービス等の導入。

(3)新旧双発型の遊びの実現

・街角広場、公園、路地、追分スクエア、歩行・LRT で楽しめる回遊ルート、歴史や地産の銘品を楽しむイベント等の導入。



■審査講評

都市計画道路を地下化し、上空部空間を人の空間に解放するという大胆な提案であり、実現性という点では様々な課題も残るが、高密度市街地の新しい都市づくりに対する強いメッセージ性が感じられ、まちづくりをユニークなものにしている点が評価される。また中心市街地の一部として地区を促え、賑わいのある地区づくりを提案していることも評価される。ただし街区のディティール等についての提案レベルがやや低いことが残念である。

奨　励　賞

■コンセプト：君平流（彩育学守）

○灯火の流れるまち

■応募者：清水章之　ほか２名

（東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻）

■主な提案

(1)君平の生い立ちを「彩る」清住町通り‥‥歴史資源の保全と活用
・君平が過ごした江戸時代後期の街並みを再現すべく、よしずや暖簾で歴史的街並みを再現する。
(2)君平の後継者を「育む」亀の甲坂‥‥子育て支援
・道路拡幅にあわせて亀の甲坂付近に地域の将来を担う子供や若者のための教育施設を集積させる。
(3)君平の教えを「学ぶ」新日光・宇都宮線‥‥高齢者の生きがいづくり
・新たに整備される新日光・宇都宮線沿道に高齢者のための生涯学習施設を集積させる。
(4)君平のふるさとを「守る」小幡一丁目・清住二丁目‥‥防災機能の強化
・未接道宅地の解消、住宅地内にオープンスースの設置、コミュニティ形成等により、災害に強く自立した地域づくり。

■審査講評

君平流という発想がユニークで、歴史の知恵に学ぶことを抽象的でなく実践した内容となっており、テーマが明快で展開力にも秀でている点が評価された。
詳細の詰めにやや甘さが感じられ、パーツにもう少しリアリティがあれば全体の迫力が一層増すもと思われる。

奨　励　賞

■コンセプト：環【：wa】

○まち動き出す

■応募者：乾 正人　ほか９名

（戸田建設㈱建築設計統轄部、東急建設㈱建築設計部）

■主な提案

「交通の環」、「まちの環」、「ひとの環」の再構築により持続的な活性化が行われ、まち全体がコンパクトに適切なスケールとデザインルールで動き続けるまちづくり。

(1)「宇都宮都心環状線」‥‥交通の環【：wa】

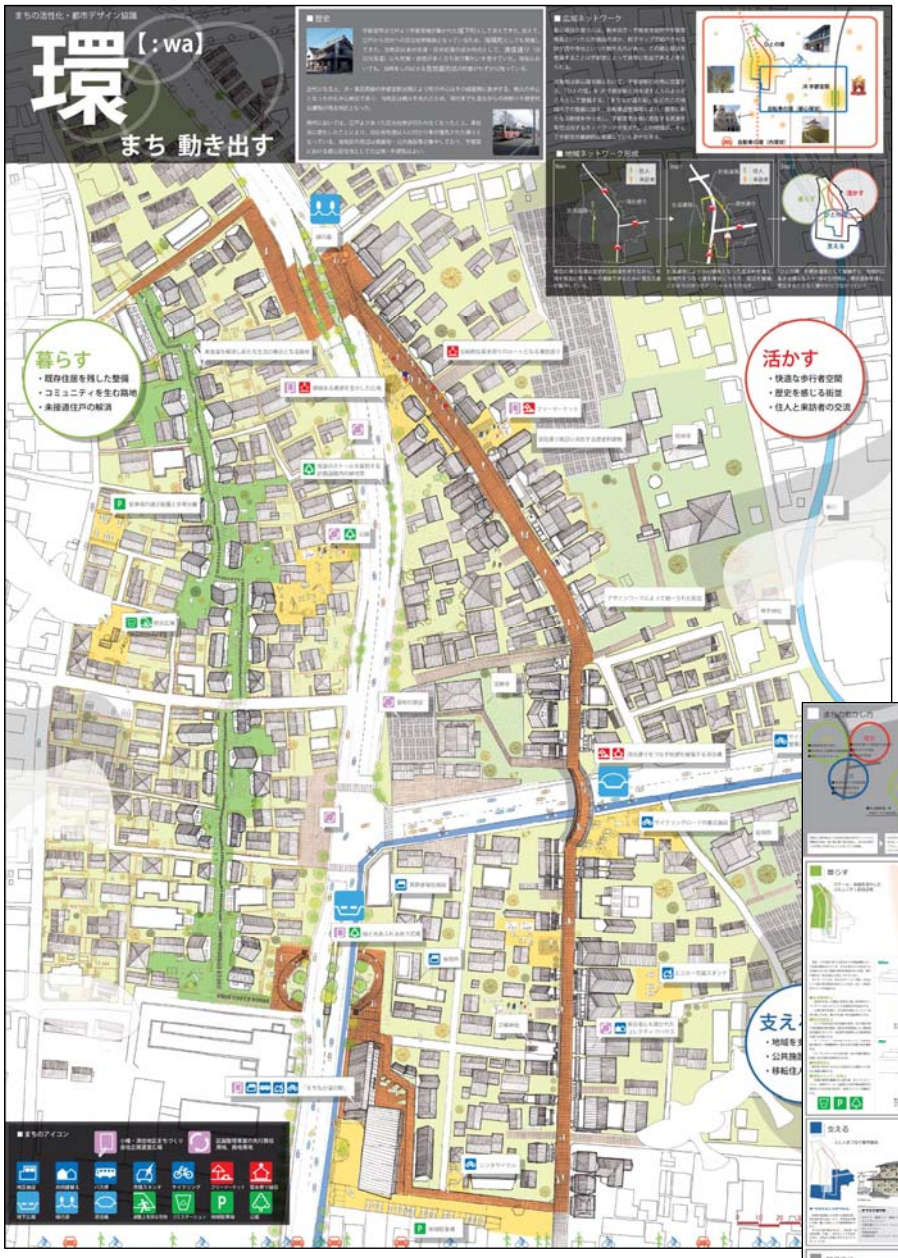
・交通のネットワークを再構築することで、都心部及び地区内の交通を整流化し、まちの活性化につなげる。

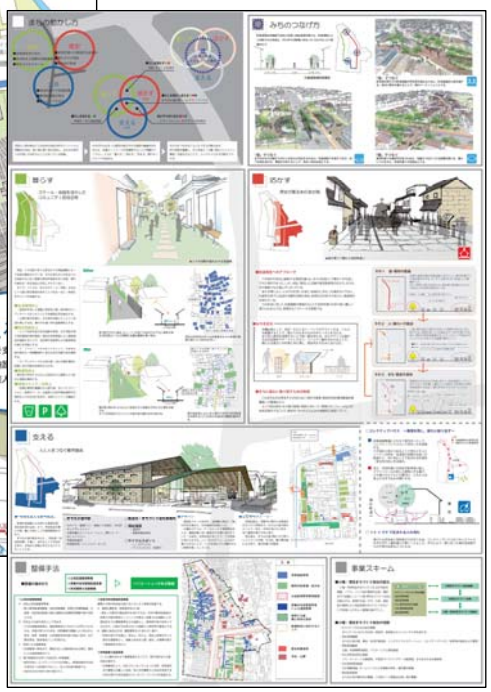
(2)「懐かしき未来のまち小幡・清住」‥‥まちの環【：wa】

・西側の住宅密集地区は「暮らすエリア」、東側の歴史的・文化的資源と商業機能が残る地区は「活かすエリア」、南側の都市機能集積の可能性の高い地区は「支えるエリア」として位置づけ、再整備する。

(3)「小幡・清住コミュニティ環状」‥‥ひとの環【：wa】

・暮らす人の歩行空間と来訪者のための歩行空間のネットワーク整備を段階的に行う。





■審査講評

幹線道路によって地区が東西に分断されることに対して、歩行者中心の歴史の軸と緑の軸をリング状に配し、地区全体を一体化する構成となっている。地域住民の交流を輪（環）の概念で取りまとめたことがユニークであり、また市街地構造も明快になっている点が評価された。

一方で、事業手法等の提案が明確でなく、緑道エリアの接道条件などに問題が残されている。

奨　励　賞

■**コンセプト**：地産地消の輪をつくる ○地域の手で　まちを耕し　育む	■**応募者**：奥田紘子　ほか１名 （㈱竹中工務店）

■主な提案

若い家族、高齢者が誇りを持って住み続ける街を目標に、区画整理事業を通して「選ばれる都市空間」・「住民の組織」そして「地域独自の財源」を整備する。

(1)耕す事業：選ばれる都市空間と地域独自の財源を生み出す「地産」のしくみ

① 区画整理会社施行による基盤整備‥‥高度利用促進区を設定し、地域の軸となる場所へ立体換地を誘導して賑わいの創出につなげる。

② まちづくり会社による戦略的住宅供給‥‥保留地の取得や先行買収により取得した土地の借地により、若い世帯・高齢世帯向けの住宅を建設。低層部には生活利便施設を導入し街の魅力を高める。

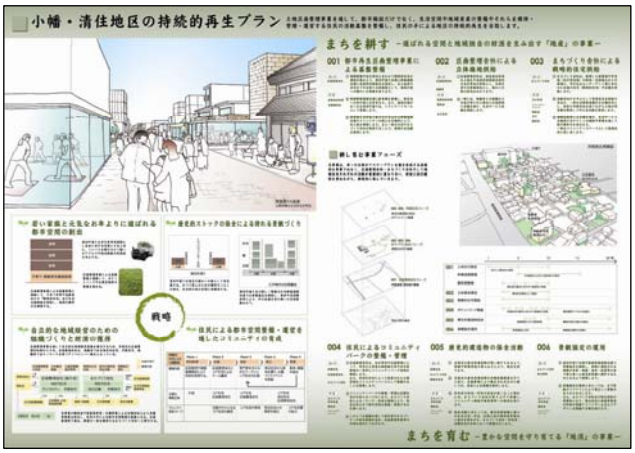
(2)育む事業：豊かな空間を地域の手で守り育てる「地消」のしかけ

① 住民による都市空間整備‥‥まちづくり会社の収益を活動資金として、住民によるコミュニティパークの整備や歴史的建造物を保全する。

② 景観協定の運用‥‥まちづくり会社が中心となって、地域住民と事業者が景観協定を運用する。

■審査講評

当案は、住民全体で、街を耕し、育むという考え方、及び時間をかけて街を変化させていくという考え方を基本に構築されており、こうした考え方はこれらからのまちづくりには不可欠の視点であり、今後重要になるテーマである。また土地区画整理事業に対する理解度の深さが感じられる。当案では、こうした点が評価された。その一方で、具体的な空間についての提案がやや希薄であることが残念である。



宇都宮市長特別賞

■コンセプト：緑と歴史が共生する街

〇緑のリンケージ（連鎖系）によるコミュニティの再生と活性化

■応募者：坪井善道　ほか３名

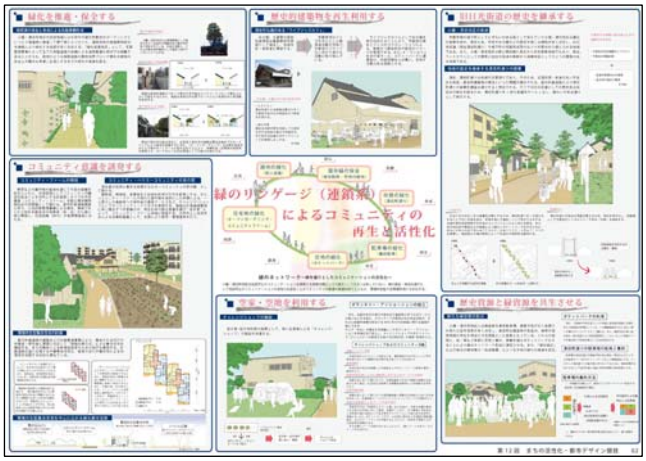
（日本大学生産工学部建築工学専攻）

■主な提案

地域固有の空間資源を再生・活用することによる、住んでみたくなるまち、訪れてみたくなるまちの形成を目指す。
(1)緑・歴史・文化的資源の保全・再生及び生成を基本とする「環境共生型街づくり」（緑のネットワーク形成と連携）。
(2)若い世代の定着、来訪者の増加を促すための魅力づくりとして、多様なビジネス、市民活動を誘発する町空間の形成。
(3)高齢者にやさしい安全で暮らしやすい住環境形成。
(4)保全・再生可能な空き家のコンバージョンによる再利用。
(5)空き地・駐車場を緑地空間、ポケットパーク等としての再利用。
(6)点在する景観資源の再生・修景による、歩きたくなるまち（回遊性）への誘導。
(7)清住通りをはじめ既存の街路網を、魅力ある歩行者中心の街路空間として再生。

■審査講評

緑化の工夫と歴史的建造物の再生により、うるおいと賑わいのある清住通りの景観づくりを提案しており、地域資源の活用だけでなくコミュニティやチャレンジショップなど、 コミュニティを活気づける居住環境の整備が評価できる。
空地の緑空間への転用や駐車場の集約の点や、街づくりの手順についてもまとめられており、分かりやすい提案になっている。



宇都宮市長特別賞

■**コンセプト**：みちのまち ○３つの「道」がつくる「未知」のまち	■**応募者**：安森亮雄　ほか７名 （宇都宮大学安森亮雄研究室）

■主な提案

(1)路地みちタウン‥‥安全・安心で住みよい都市居住の実現

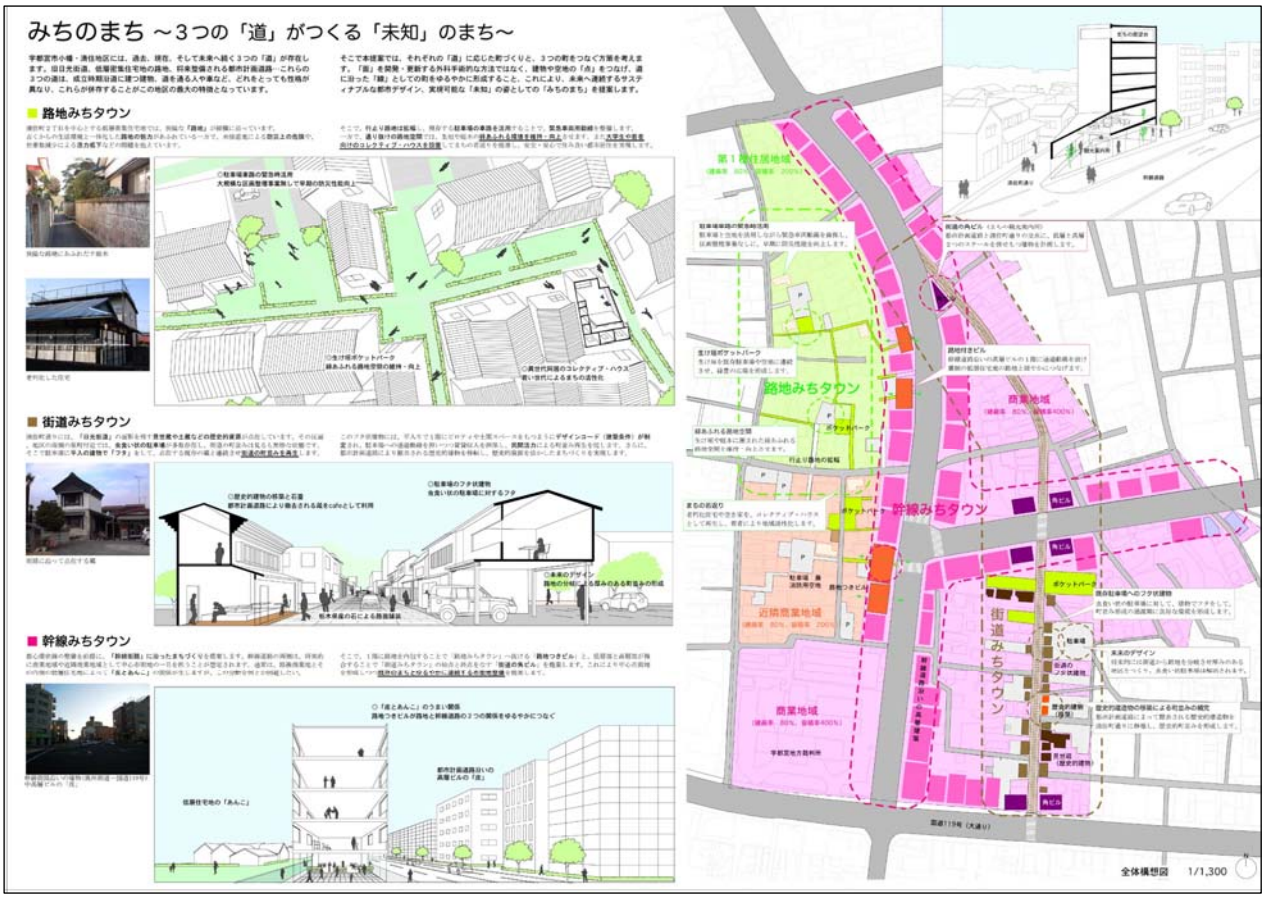
清住町２丁目を中心とする低層密集住宅地において、空き地等の活用や行き止まり路地の拡幅による緊急車両動線の確保。生け垣や庭木の緑あふれる通り抜けの路地空間の維持・向上。大学生や若者の住まうコレクティブ・ハウスの設置。

(2)街道みちタウン‥‥歴史的資源を活かしたまちづくりの実現

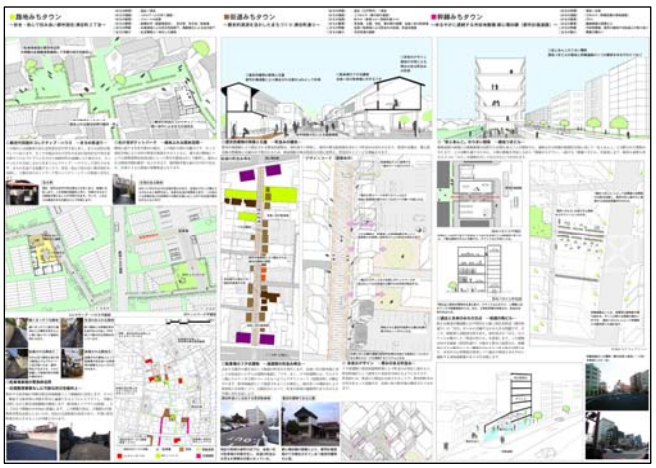
清住通り沿道の歴史的資源を活かした賑わいのある魅力的まちなみ景観を再生するため、デザインコードの制定により、沿道の壁面が連続するよう誘導する（沿道に面する駐車場は平入の建物で「フタ」をする）。

(3)幹線みちタウン‥‥幹線道路に沿ったまちづくりの実現

幹線道路沿いには、「路地付きビル」の配置により、幹線道路から路地みちタウンへの歩行者動線の確保とともに、沿道建物景観の分節化（ヒューマンスケールの景観の確保）を図る。



■審査講評

路地・街道・幹線の「みち」・沿道建物のそれぞれの提案内容が面白く、現代的な生活機能を持つと同時に、歴史的な造りが多く残る景観資源を活用した景観づくりに工夫がみられる。

駐車場や空地を活用した防災上の取組みは独創的で、平面的な図と立体的な図の組み合わせにより将来像がイメージでき、古くから受け継がれた自然や歴史を大切にしている点が評価できる。